

総合計画策定市民会議 第1回専門委員会 会議録

【市民生活・環境】

開催日時	平成 25 年 5 月 21 日（火）午後 7 時 00 分～午後 8 時 45 分
開催場所	勤労者会館 2 階 大会議室
出欠状況	総委員数：13 名（出席委員数：12 名、欠席委員数：1 名） 事務局 2 名、コンサルタント 1 名 欠席委員：宮原 則子委員
会議の概要	
	進行：副部会長 土屋 鈴子
	
開会	
あいさつ	(略) ※ 部会長が所用で遅れるため、事務局で対応
コンサルタント	前回のワークショップでは、市民生活・環境分野における“市の良いところ”“市の良くないところ”についてご意見をいただいています。今後の作業としては、“理想とする市民生活・環境の姿”を実現するために、良いところは伸ばし、悪いところは改善する方策を見つけなければなりません。 そのためには、今までの意見を整理していく必要があります。 今の状態では意見が列挙されたままですから、これらをカテゴリに分類して整理するとともに、似た内容は集約していくよう進めたいと思います。

委員

まずは、カテゴリ分類を進めましょう。

(現状認識)に関して、前回までの意見に追加する要素は加えていく必要があると考えるが如何か？

コンサルタント

お見込みのとおりです。不足している内容もあろうと思いますので、分類整理を進めることと並行して追加していきましょう。

～ワークショップ（前回の続き）～

- ①意見の分類作業
- ②追加意見の集約作業



(※市民生活に関する今までの意見を、自然環境と衣食住環境に分類し、分類した内容から今後の取り組みの柱となるテーマを議論)

<衣食住環境に関する意見の集約>

- ・商店街の衰退に関しては、当事者がどうしたいのかという主体性がはっきりしていないのではないか。
- ・地元の商店街が衰退すれば、みんなが不便になることは明らかであり、自分たちの生活を守っていくためにも商店街は必要という認識をもつ必要性がある。
- ・歩いて行ける範囲に生活環境が整っていることの必要性
- ・出生率、結婚率の低下に潜む雇用という問題
- ・地域交流活動の限界
- ・空き家の利活用が進まない現実

<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の関心の低さ ・行政が仕掛けた事柄に市民がのってこない現実 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活気＝皆が集える場所をつくることから出発 ・商店街にコミュニティプレイスを確保することの必要性 ・身近な公民館を活用したコミュニケーションの場所づくりの必要性 ・市民の関心を高める魅力の創出 <p><自然環境に関する意見集約></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地の利を生かすことの必要性 ・小規模農家が自然環境を維持していた現実 ・自然環境の良さと、一見相反する生活環境の良さ <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然エネルギーの活用 ・自然守る＝農を守る ・市の環境に独特の魅力をつくり、市民の関心を集める <p>ここで提案ですが、今議論されている方策を考える上での論点の集約化について、事務局である程度テーマの絞り込みをさせていただきたいと思います。</p> <p>その資料を事前に配布し、次回の会議までには委員がそれぞれ、テーマに基づいて方策を考えておけば、時間のロスも無く、意見交換できる時間も多くなってくると思います。</p> <p>皆さん如何ですか？</p> <p style="text-align: center;">(全員承認)</p>
<p>部会長</p>	<p>それでは、事務局から提案のあったとおり、事前に送付された資料をもとに、委員は考えをまとめておいてください。</p> <p>今回は、6月10日(月)午後7時から福祉センターで開催します。宜しくお願いします。</p> <p>本日は、これをもって閉会と致します。お疲れ様でした。</p> <p style="text-align: center;"><総合計画策定市民会議事務局> 東御市 総務部 企画課 企画政策係 (総合計画担当) 電話：64-5893 (直通) Eメール：kikaku@city.tomi.nagano.jp</p>